

第2学年〇組 学級活動(1)指導案

日 時：令和6年〇月〇日(〇)第〇校時

場 所：2年〇組教室

授業者：〇〇 〇〇

1 議題「3学期の係を決めよう」(イ 学級内の組織づくりや役割の自覚)

2 議題について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく活発で、様々なことに興味をもち、楽しみながら取り組むことができる。学習面では、読書や読み聞かせを楽しみ、どの授業にも真剣に取り組んでいる。当番や係活動は、クラスの一員として自分の役割を果たそうとしている。休み時間は大人数で鬼ごっこをして仲良く教室へ帰ってきたり、けがをした友達を心配したりする姿も見られるほど、友達思いの児童が多い。しかし、中には、特定の児童としか仲良くできなかったり、自分から友達に声をかける勇気がなかったりする児童もいる。授業での発表は、特定の児童に偏りがちであり、発表ができる人に任せてしまい意見を出さない児童が見られる。

学級会アンケートを実施したところ、「たのしいから」「お楽しみ会ができるから」という理由で学級会を楽しみにしている児童が多かった。学級会で自分の意見を言うことに関しては、「意見を言うことが恥ずかしい」「緊張する」などの理由で意見を言うことができないとしている児童が少数いた。また、自分が出した意見も友達が出した意見も大切にしていると感じている児童がほとんどであるが、意見を大切にするとするという実感があまりない児童も一定数いることがわかった。

これらの結果から、本学級の課題は、議題を自分のこととして捉え、友達の意見をよく聞き、みんなで意見をまとめたという実感を伴った学級会の運営である。多様な議題での話し合いを通して、学級活動は「自分たちでよりよい学級にしていくための活動」であることを実感させていきたい。

1学期の話し合い活動では、「2年〇組のクラスのうたをきめよう」「1学期がんばったね会をひらこう」などを行ってきた。本学級では、自分の考えをもち、友達の意見をよく聞いて折り合いをつけながら、みんなが納得できるようにまとめていくことを大切にして活動を行ってきた。学級会の回数はまだ少ないが、計画委員を中心に協力して意見を出し、まとめようとする姿が見られるようになってきた。児童は、輪番制で回ってくる計画委員の仕事に意欲的である。課題として、意見を出す児童が偏りがちであることや、めあてから話し合いがずれてしまうことがあげられる。意見を出すことを苦手とする児童も、自分の考えをもっている。どの児童の考えも平等に扱うことができるように、様子を見ながら話し合いを進めていきたい。

(2) 議題選定の理由

本議題は、学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」のイ「学級内の組織づくりや役割の自覚」に関わるものである。「係活動を、みんなでよりよくしていきたい。」「係活動を充実させて、楽しいクラスにしていきたい。」という、児童の提案によるものである。他にも「2学期のお楽しみ会をしよう」や「クリスマス会をしよう」、「2年生でスポーツ大会をしよう」という議題があがったが、1年間の係活動のまとめとして、3学期の係活動をみんなで楽しく活動したいという理由で選定された。まず、前時に学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」のイ「社会参画意識の醸成や働くことの意義理解」に関わる話し合いを行う。2学期中盤になり、これまでの係活動について振り返り、問題の発見や確認、解決方法を話し合い、決定し、改善して活動していく。次に、本時で3学期に学級に必要な係について考え、決定し、役割を決める。学級生活を楽しく、より充実したものにするための係を考え、積極的に係活動を行えるようにしたいという思いで、児童と共に選定した。3学期は1年のまとめの時期である。一人一人が責任をもって楽しく活動できる係を考えさせていきたい。

3 研究課題との関わり

(1) 研究課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

(2) 研究の視点

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり
～特別活動の「見方・考え方」を働かせた話し合い活動の充実～

(3) 研究課題解決のための視点と手立て

視点Ⅰ 自ら課題を見出し、適切に議題を設定することで、児童が当事者意識をもって主体的・対話的で深い学びを実現できる。

手立て① 議題設定案カードの提示により、児童の議題設定をサポートする。

手立て② 提案理由をキーワード化することで、自分たちの課題・話し合う理由が明確になるクラス全員が当事者意識をもてるようにする工夫。

視点Ⅱ 自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受け取ったりする経験を積み重ねれば、よりよい人間関係の形成や集団生活の構築に繋がる話し合い活動になる。

手立て① 話し手が安心して発表できる雰囲気を作るための聞き手の姿勢の工夫。

手立て② 学級会ノートに児童が自信をもって発言できるように教師が励ましや助言をコメントする工夫。

手立て③ 提案理由をキーワード化することで児童が自分の意見を伝えやすくする工夫。

視点Ⅲ 話合ったことを実践すれば自分が集団に参画し、主体的に関わろうとする姿勢を醸成することができる。

手立て① 実践を通して自分たちが成し遂げた達成感と喜びを共有し、振り返ることによって次の実践に繋げる工夫。

4 第1学年及び第2学年の評価規準

よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しむために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しむために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲よく助け合って実践している。	学級生活を楽しむために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

5 事前の活動

日 時 活動の場	児童の活動 ○計画委員会●全員の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
○月○日(○) 昼休み	○議題選定する。 ●全員で議題を決定する。 〈提案された議題〉 ①3学きのかかりをきめよう ②2学きお楽しみ会をしよう ③クリスマス会をしよう ④2年生でスポーツ大会をしよう	・議題選びの視点を 念頭に置いて選定 するように指導す る。	◎学級生活をよりよく するために、進んで 議題を考えたり、選 んだりしようとして いる。【態】 (提案カード ・観察)
○月○日(○) 昼休み	○活動計画の作成をする。 (提案理由、めあて、話し合 うこと、役割分担)	・前回までの話し合 いを生かす視点をも てるようにする。 ・決まっていること の内容は教師と共に 設定する。	◎計画委員の役割、話 合い活動の進行の 仕方について理解し ている。【知・技】 (活動計画 ・観察)
○月○日(○) ○校時	○話し合うことを全員に知ら せる。 ●学級会ノートに自分の考 えを記入する。	・前回までの話し合 いを生かす視点をも てるようにする。 ・提案理由に沿った 意見が書けるよう 助言する。	◎議題について、自分 事として捉え、自分 の考えを持とうとし ている。【態】 (学級会ノート ・観察)
○月○日(○) 昼休み	○全員の学級会ノートに目 を通し、書かれた意見を整 理する。 ○出された意見をまとめ、短 冊の用意を行う。	・話し合いの見通しをも てるように、あらか じめ短冊に記入さ せておく。	
○月○日(○) 昼休み	○リハーサルを行う。	・話し合いの進め方や 意見のまとめ方を 確認させる。	

(1) 本時のねらい

(2) 児童の活動計画(学級会ノート)

だい〇回 〇月〇日(〇) 〇じかん目

4

		りと1分くらい話し合う時間 をとる。	
10 きまったことのはっぴょう 11 ふりかえり 12 先生のおはなし 13 おわりのことば	8分	・ノートきろくはきまったことを わかりやすくはっぴょうする。	

(3) 教師の指導計画

活動の計画	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
1 はじめの言葉 2 クラスの歌 3 計画委員の紹介 4 議題の確認 5 提案理由の確認 6 めあての確認 7 決まっていることの 確認 8 話合いのめあての確認 (先生の話) 9 話合い 話し合うこと① 「どんなかかりをつくる か」 話し合うこと② 「かかりのぶんたんをきめ よう」 10 決まったことの確認 11 振り返り	・計画委員は自分のめあてなど が言えるようにはげます。 ・提案者の思いや願いを学級全 員が理解した上で、話合いに 参加できるように、助言する。 ・提案理由の中のキーワードを 押さえ、話合いの指針となる ように意識付けを行う。 ・一人一人が責任をもちながら 楽しく活動できる係を決める ことを確認させる。 ・意見を分類したり、整理したり する視点をもたせる。 ・比べ合う段階から進めるように する。(追加の意見があるか確 認をする) ・出し合う段階から行う。(柱① での話合いをもとに) ・話合いでの決定事項を明確に する。 ・よかった点や課題について自 己評価し、次回以降の話合い に生かせるように助言する。	◎簡単な理由をつけて考え を発表したり、友達の意 見を受け入れたりしなが ら、合意形成を図ろうと している。 【思・判・表】(観察) ◎友達の意見を聞き取り、 よりよい話合いになるよ う考えようとしている。 【態】(観察)

